

ストリングの基礎知識



今回解説してくれるのは



村山 友一

(テニスサポートセンター渋谷店)

テニスギアをこよなく愛するが故に、ラケットは自分のテニスの歴史として捨てられず大切に保存！ぜひ、お店でラケットトークしませんか？



知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフ向上に役立ててください

ノッチになりにくい設定とポリが切れない場合について



各社から様々なコーティング技術を採用したストリングが販売されている

Q ポリを単張りで使用していますが、すぐにノッチができません。ノッチのできにくいストリングや設定はありますか？
(テニス歴5年/10代男性)

特殊コーティングの丸型ストリングがおすすめ

ノッチが発生する主な理由は、打球時にストリングが可動することにより、その部分が削られて溝になってしまうことです。基本的に材質に関係なく発生する現象であるため、ナイロン、ポリエステル、ナチュラル全ての材質でノッチは発生しますが、ストリングの種類を変えることで緩和することができます。おすすめは丸い形状のストリングです。丸いストリングは角や凹凸がないぶん、ストリング同士の消耗を抑えることができ、ノッチの予防が期待できます。また、その中でもストリングの表面にコーティングをしている

製品が特にお勧めです。近年は道具の進化も目覚ましく、シリコンをはじめ様々な特殊コーティングが開発、採用されています。コーティングを施された各製品は、耐久性はもちろんのこと様々な特徴を備えているので、ぜひお試しください。既にそういった製品を使用されているか、またはあまり種類の変更をしたくない場合には、ハイブリッドもお勧めです。打感などの印象は縦糸が優先されるため、縦糸はいつものストリングにして、横糸を丸型のストリングやコーティングを施された製品に変更してみてください。それまでのストリングに近い使用感を維持しつつ、ノッチの予防が期待できます。

Q ずっとポリを使用していますが、もう1年以上切れていません。ナイロンに変えるべきでしょうか？
(テニス歴20年/40代男性)

デメリットもあるが、気に入ればナイロンでOK

当店では、ストリングが切れなくても、ポリは1カ月で張り替えることを推奨しています。ストリングは時間の経過によるテンションの低下に加えて、素材自体が伸びてしまうことで本来の性能が失われるからです。

テニションが下がりがきり、素材も伸びたストリングはボールを飛ばすことはできませんが、面の安定性は失われているので、コントロールしづらく振動も発生しやすくなります。また、ストリングが長期間切れないう原因としては、素材が伸び切ったテニションが下がったことで、張りたての時よりもボールが飛び過ぎてしまうことから、本来のスイングスピードで打てないケースが多いです。プレースタイルにもよりますが、ポリが切れない場合はナイロンを試していただき、気に入ったストリングがあれば変えてしまった方がいいと思います。ナイロンに変更するメリットとしてテニション維持性能が優れていて、一般的に張り替えは3カ月と想定されています。この点がストリングのあまり切れない方にナイロンをお勧めする理由の1つです。素材としても柔らかく、糸がたわむのでボールも楽に飛んでいきます。打球時の衝撃も少ないので、ヒジや肩



伸びてヨレヨレのストリングでは本来の性能が出せない

ストリング都市伝説

ジュニアラケットのストリングは張り替えられない？

状態によりますが、張り替えが可能です。ジュニアラケットの材質はアルミニウムだけで製造されているものと、カーボンやグラファイトも加えて製造されているものがあります。それぞれの素材によってフレームの性質も変わってきますので、使用頻度によってはフレームの傷や痛みが激しく張り替えの負荷に耐えられない場合があります。

への負担を軽減できます。デメリットを挙げるならば、現在はポリエステルの方がストリングの形状が豊富で、スピンのかけやすい多角形や独特の打感を持つラフ加工の製品をはじめ、バリエーション豊かな形状があります。その点ナイロンは、内部の構造で打球感に差を生むことはできませんが、表面構造でスピンのかかりを良くする製品は少なく、スピンを多くかけたプレヤーは悩まれることが多いです。また、ポリに比べる物理的な耐久性が低く、練習量の多い方やボールを強く打つ方は早く切れてしまうでしょう。